



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



札幌部会(第29回)・東京部会(第128回)

日時:	2022年2月26日(土) 15:00 - 17:00
場所:	ZoomによるWeb会議
参加者:	28名参加

【内容要旨】

- 鈴木深氏(東京証券取引所)から、夏の経済教室について、大阪と東京の2会場で、東京会場はハイブリッド開催を予定していることが報告された。
- テスト問題と授業の連続性をはかるといふ大倉泰裕先生(千葉県立松戸向陽高校)の提言[2021年10月9日大阪部会(第77回)・東京部会(第126回)]を受けて、札幌部会の先生から授業プリントやテスト問題について紹介が行われた。
 - 藤倉水緑先生(札幌清田高校)からは、平常点から定期考査へとどのようにして評価にもっていくのかという問題提起がなされた。
 - 吉川敦巳先生(札幌東高校)からは、教科書会社の準拠スライドを活用した授業例と、教科書を活用して記述を行うワークシートや、論述形式のテスト問題が示された。論述の問題例は、GDPの指標としての限界を論じるものであり、論述の評価の観点についての質疑が行われた。
 - 下川欣哉先生(札幌国際情報高校)からは、なぜGNPで固定資本減耗を差し引くのかなど、「何のためにこのことを行うのか」を重視した授業と論述形式のテスト問題が紹介された。論述の問題例は、国民所得を増やすため政府、家計、企業など様々な立場から方策を論じるもので、答えを求めるといよりも、考えさせる設問としては良い問いであるというコメントがなされた。
 - 滝村聡宏先生(札幌北高校)からは、そのままテスト問題に反映している授業プリント例が紹介され、併せて対象が定時制の生徒ということもあり、エピソードを持ってドラマチックに生徒の生活との結びつきを実感させる「金融クエスト」などを活用した授業が紹介された。作成者の中沖栄氏(清水書院)も交え、「金融クエスト」の改善点や成果について交流が行われた。
 - 川瀬雅之先生(札幌新川高校)からは、穴埋めを生徒が黒板に解答し、先生が解説するパターンのもので、作業的なものなど多様な形態の授業プリントやテスト問題が示された。この中で、より良い社会のイメージを可視化するために、租税、財政、社会保障の観点で大切と考えるものを点と点で結んで、その理由を論述するというテスト問題について出所などの質疑が行われた。
- 新井明先生から昨年の東京部会の資料をもとに、授業とテスト問題の結びつきに関する年間を通した筑波大学附属中での実践例が紹介された。関連して、札幌市内の中学校は年4回の定期試験を年2回にするなど、テスト廃止の方向に進んでいることが紹介された。

[文責:山崎辰也(北見北斗高校)]

<input checked="" type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
---	--	--	------------------------------	------------------------------------

次回開催予定:札幌部会は2022年6月4日(土)15:00~17:00、東京部会は未定。

議題 経済に関する授業案、試験問題の交流など